

## (36) 春日神社 (岩倉) (かすがじんじゃ)

住所：三重県伊賀市岩倉410  
TEL：0595-24-0480  
参拝日：2015年2月4日

### 【村社】

主祭神：天兒屋根命

祭神：大山祇命、大己貴命、大物主神

境内神社：八柱神社（五男三女神）、神明神社（大日婁貴尊）、稲荷神社（倉稲御魂命）、津島神社（素盞鳴命）、少名彦神社（少名彦命）



石柱と鳥居



鳥居と拝殿



拝殿

案内：(伊賀神社参拝案内図)

恒武天皇の皇女伊登内親王が従者18名とこの地に至り居を構える。天徳年間内親王崇敬の春日神を勧請し祭儀が始まる。時代とともに里も栄え岩倉地区民二百数十戸の氏神として特殊神事、弓始式を含め祭儀を齎行している。

本社は岩倉の集落の中にあり、境内は石柱で囲われており、村社春日神社の石柱をみながら石の鳥居をくぐると左手に手水舎と社務所がある。二つ目の鳥居をくぐり階段を登ると、阿吽の狛犬と妻入造りの拝殿があり、右脇には石積みの上に2匹のかわいい鹿の彫刻が出迎えてくれる。背後の塀の向こうに外削の千木と3本の鯉木が乗った春日造の本殿がみえる。社叢にはカゴノキ、アカガシ、エノキ、カヤ、クスノキ、スギ、ヒノキなどの大木の他ツガ、モミジ、ナンテン、ヤツデ、サクラ、アカメガシワ、ウルシ、エノキ、ムクノキ、シロダモ、ヒサカキ、サカキ、ヤブツバキ、ケヤキ、チャノキ、マンリョウ、アオキ、シュロ、ナンテン、キツタ、五葉アケビ、イチヨウ、ヒイラギ、オガタマノキなどがみられる。

祭祀は例祭5月1日、弓始祭式1月3日、祈年祭2月16日、新嘗祭11月23日、その他年中恒例祭儀4回

由緒：(三重県神社誌)

当社の創祀については詳らかにし難い。近世の地誌類には、「春日大明神」「春日ノ祠」と記す。社傳によれば、恒武天皇の皇女伊登内親王が従者永井上総外16名の従者と共に当地に住され、草花を用いて染め物をなし、これを生業とされた。薨去にさいし御遺言に、奈良より春日大明神を勧請されたき旨を残しおかれ、



本 殿

村上天皇の天徳年中に稲浦（当時は南浦又下出）の地に勧請し祀ったのが創祀と伝えられている。内親王の従者の子孫と伝えられる者が村内に18戸あり、これを18講と称し明治に至るまで、当屋として祭礼や氏子の監督にあっていたと言われている。江戸時代を通じ近郷の氏神として附近の人々の崇敬をあつめていた。明治40年（1907）大字西村字中山鎮座の無格社山神社を合祀した。宝物等：棟札一枚（延宝8年〈1680〉在銘） 神明帳一卷（上野市指定文化財）



鹿の置物

特記事項：弓始祭は本殿で祭典後、神職、総代、祭礼当人が「蟲」と書いた標的に順に二本ずつ矢を射る。古老の口碑によれば伊登内親王存生の折、近村に鬼人が現れ村人を悩ませた時、内親王主従が鎧塚（地名）なる所より弓矢をとり、鬼人を退治したことに始まるという。